



食品の安全を守る衛生学

食品の安全を守る分析手法の提供、輸入医薬品等の該当性判断、未承認医薬品等・健康食品・食品の輸入手続き相談、衛生行政の施策提案

ひらはら よしちか
准教授 平原 嘉親 (食品衛生学研究室)



E-mail yoshichika.hirahara@setsunan.ac.jp

キーワード

LC/MS/MS 残留農薬 輸入食品 未承認医薬品等 該当性判断 リスク分析

研究概要

背景

- 食品中に含まれる有害物質は健康を脅かすとともに貴重な栄養源である食品の価値を低下させます。
- 食品中の有害物質を正確に検出する技術は、食品の安全性を正しく理解し評価する上で重要です。
- 科学的根拠に基づいて食品のリスクを正しくわかりやすく伝えることが大切です。

目的

- 食品中の有害物質を測定する分析手法を開発し、GLP、HACCPに基づく衛生管理システムを構築していきます。
- 食の安全を正しく理解するための人材を育成していきます。

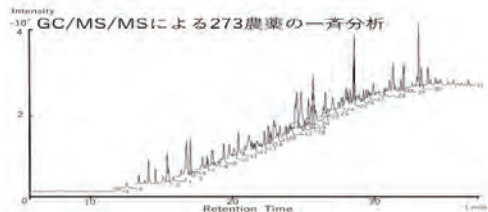
主な成果

- 輸入食品中の250種類を超える残留農薬のLC/MS/MSによる一斉分析法など水際検疫に必要な様々な食品分析法を開発してリスク管理に反映してきました。
- 水際での膨大な輸入食品のルーチン検査を通して、正確かつ迅速に正しい結果を継続して得るためのノウハウを構築し、職員教育に活かしてきました。
- 国立医薬品食品衛生研究所において、器具・容器包装中に含まれる可塑剤、低沸点有機化合物などの公定試験法を開発に携わってきました。
- 国の薬事監視専門官として税関止めとなった医薬品、医療機器、化粧品、健康食品等の有効成分、表示等に基づく該当性判断、未承認医薬品等の輸入手続きの相談、指導を行ってきました。
- 内閣府食品安全委員会において汚染物質・化学物質のリスク評価を行い、自治体、産業界、消費者等へのリスクコミュニケーションに応用してきました。

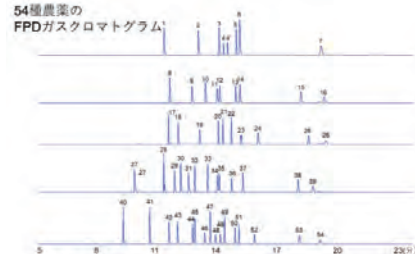
連携への展望

【食品産業、研究所、検査機関との連携】食品中に含有する各種化学物質の分析技術の共同開発、GLP、精度管理、HACCPシステムに基づく衛生管理システムを構築し、連携をはかっていきます。

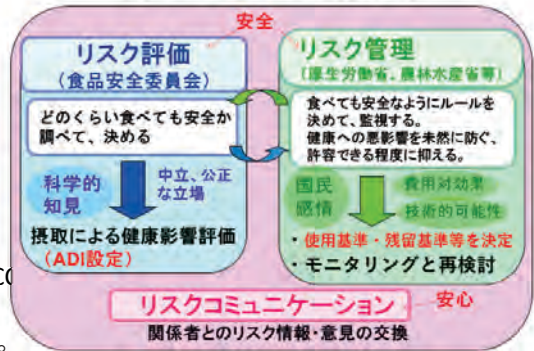
【自治体との連携】国での行政経験を生かして未承認医薬品等や食品の安全性に関わるリスクコミュニケーション、地域貢献、啓蒙活動、衛生行政の施策の提案などを行います。



食品中に含まれる農薬の一斉分析



食品安全に関する「リスク分析」



アピールポイント

厚生労働省検疫所、厚生局、内閣府食品安全委員会、国立医薬品食品衛生研究所など国の医薬・食品衛生行政・研究の現場における経験を生かして、食品安全を確保するための分析手法の提供、職員の衛生管理意識・モチベーションの向上、人材育成など企業や行政の施策を遂行するためのエビデンスの構築に貢献します。